

オーム・ナマシュチャンディカーヤイ
オーム、女神チャンディカに敬意を表する
ナヴァラトゥリーを祝ってささげられたプージャー
シュリー・ムクターナンダ・アーシュラム
2019年9月29日 日曜日～10月7日 曜日

インドの収穫の時期には、モンスーンの季節が終わり、田園地帯のあちこちにある田が生い茂り豊かになります。そして、人々の心の領域もです——それらは活気に満ちています。人々は、偉大な女神である母なる大地と、女神のさまざまな姿に感謝をささげずにはられません。従って、国中の人々がそこここで集い、プージャーに参加したり、賛歌を歌ったり、物語を語り、断食をし、豪華な食べ物を準備し分かち合い、ガルバと呼ばれる歓喜の踊りを踊ったりと、いろいろな方法でデーヴィーを崇拝し、ナヴァラトゥリーの祝祭を祝います。この祝祭は九夜にまたがり、10日目には、インドの暦であるパーンチャーンガによると一年を通じて最も吉兆な3日半のうちの1日であり、ヴィジャヤダシャミーとしても知られるダセーラの祭典で最高潮を迎えます。

シッダ・ヨーガの道では、ナヴァラトゥリーを祝う時、私たちはシュリー・グルがシャクティパート・ディークシャーの恩恵を授けて私たちの内に目覚めさせる精神エネルギー、クンダリニー・シャクティの具現として、デーヴィーをたたえます。

今年のナヴァラトゥリーの祝祭には、SYDA ファウンデーションの管理部門が、九夜の各夜にプージャーを行うよう、インドのヴァジュレーシュワリからブラーミン司祭であるサントーシュ・ムドゥガルを招待しました。2世代にわたり、サントーシュ・バウ家の司祭たち——初めは彼の父、

そして今はサントーシュ・バウ自身——は、インドのガネーシュプリーにあるシッダ・ヨーガ・アーシュラム、グルデーヴ・シッダ・ピートウで多くのプージャとハヴァンを行ってきました。

このフォトギャラリーの題名、「オーム・ナマシュチャンディカーヤイ」は、デーヴィーの祝福を呼び起こすマントラです。バーバ・ムクターナンダは、デーヴィーの偉大さを称賛する賛歌を歌うのが大好きでした。心を揺さぶる「オーム・ナマシュチャンディカーヤイ」の祈願を含むこれらのデーヴィーの賛歌をバーバが歌うのを、シッダ・ヨーガのブックストアにある『シュリー・デーヴィー・ストートルム』の CD で聞くことができます。

「オーム・ナマシュチャンディカーヤイ」のギャラリーでは、シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムでのナヴァラトウリーのお祝いが描かれています。そこには、この祝祭の間に敬われるデーヴィーの三つの主要な姿であるマハードウルガー、マハーラクシュミー、そしてマハーサラスワティーに向けてサントーシュ・バウが行なったプージャが含まれています。

このギャラリーにあるプージャの写真の何枚かは、プージャの参加者すべてを代表してささげ物を行い、伝統的には夫婦が務めるヤジャマンという役割の人々の姿を描写しています。

私たちは、シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムでのナヴァラトウリーのプージャの写真を見ながら、このプージャの意図の気づきを持ち続けることができます。そして、ナヴァラトウリーのプージャのための祭壇とささげ物の象徴的な意義について読んだり、デーヴィーをたたえるデヤーナ・マントラの録音を聞いたりすることもできます。

